

民報あばしり

NO.855

2012.2.19

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三二一四四五八
F 四三二一四四五七

盛況のうち流水まつり終わる!



第47回あばしりオホーツク流水まつりが、10日から12日までの3日間開かれました。

10日の開会式には、友好都市の沖繩糸満市、神奈川県厚木市、山形県天童市から市長、市議会・商工関係者が参加、今年には鯨文化が縁で、3日間の来場者は昨年より1万8千人多い7万2千人になりました。

網走市と「友好パートナーシップ意向書」を取り交わしている韓国蔚山(ウルサン)広域市南区から98人の訪問団、台湾から国立台北教育大学院生など29人などと共に多くの市民が参加し行われました。

この日は流水が近づき、まつりを祝うかのような日になりました。

開会式終了後は、友好都市から来場者にプレゼントがあり、糸満市からは「特産小菊3千本とニンジン美ら(ちゅら)キャロット100キロ。厚木市からは

確定申告学習会 開かれる

北見民主商工会網走支部は、2月12日午後からエコーセンターで、確定申告のための学習会を開きました。

不況のせいもあり、ここ数年売り上げの減少が続いているように、集まった民商会員の表情も笑顔が見えませんでした。売り上げが落ちて消費税が払えなくなり、分納していきなり払えない状況が、会員の

中にもでてきています。しかし、網走税務署は、禁止されている「消費税の支払いを小切手を切つてでも支払え」と強要することもしています。そこには、中小零細業者が、どれほど大変な中で事業をしているか理解しようとする姿勢は見られません。民商は、会員が力をあわせて、潰されてたまるかと団結して頑張っています。

ホームページを開設

日本共産党網走市議団は、以前から検討していたホームページを今月14日から開設しました。まだまだ、不十分なところもありますが、徐々に改善してより良いホームページにしていきたいと思っています。アドレスは <http://jcpasigi.web.fc2.com/> です。応援よろしくご願ひ致します。



敏勝 東奔西走

今年の流水まつりは、ほぼ晴天に恵まれて従来より短い3日間でしたが、前年を上回る来場者がありました。開会式に先立つ屋台村の初日に妻・義弟とで出向き、待ち合わせていた友人とで、体が温まる飲み物を傾けながら力キや天ぷらなどを焼いて、楽しい一時を過ごしました。ことは寒さが厳しく、心配された流水も適度な位置に寄って来て、砕氷船「オーロラ」での観光客を喜ばせ、まつりを盛り上げていました。

まつりの主役は流水ですが、会場の主役は氷雪像です。今年事業所や各団体・市民の手づくり像43基が友好都市訪問団や観光客・市民を迎えました。私も出身大学の網走市同窓会の「チェブラーシカ」で3回目の出品で参加しました。最優秀に選ばれた「ルパン三世」を造った32年連続の「きのこの山」グループには及ばないまでも来年度はもっと進化したものをとの気持ちになりました。昨年より数基減りましたが、47回目を数えた流水まつり、市民手作りの氷雪像がまつりをしっかり支えるため、造り手づくりへの努力も一層求められるのではと感じました。

松浦 奮戦メモ

先週、北見に向かって美幌町を通ると「のぼり」が林立していて、「TPP反対断固反対」と大きく書かれました。また、JAでは日甜で作っているスティックワッペンが貼られて町民に配っているそうです。

共産党は、TPPになぜ反対しているか。1つには、いま東日本大震災の被災地では復興のため懸命な努力が続けられている。被災地の最大の産業は第一次産業であるため、大打撃を受けてしまいます。2つには、日本の食と農の荒廃をまねく。TPPは例外のない関税の撤廃といっています。

また、政府は国内農業の大規模化を言っていますが、耕作面積が広い北海道でも平均で22畝、アメリカは200畝、オーストラリアは1500畝です。いくら大規模化しても規模が違いすぎて競争にならないのは明らかで、国内農業はほとんどつぶされてしまうでしょう。問題だらけのTPPは、断固として阻止しなければなりません。

流水

3・11を目前にして、「その日とどう向き合べきか」を考えさせられます。この一年間、政府と国会断を何もできませんでした。それは何故なのか、過去の過ちとの決別ができないからに他なりません。福島第一原発事故の原因究明も、事故の終息も何も決着はついていないと言いつつ、「まだ横車を押せる」「まだ金を引き出せる」と考える人たちがいるのは、ひとえに政治の責任が大きいと思います▼昨年9月の6万人が集まった「さようなら原発集会」のスピーチの抜粋です。「毎日、毎日、否応なくせまられる決断。逃げる、逃げない。食べる、食べない。洗濯物を外に干す、干さない。子どもにマスクをさせる、させない。畑を耕す、耕さない。何かにも申す、黙る。さまざまな苦渋の選択がありました。▼そして、いま、半年という月日のなかで、次第に鮮明になってきたことは、真実は隠されるのだ。国は国民を守らないのだ。事故はいまだに終わらないのだ。▼あの戦争もそうではないのだ」▼あの戦争もそうでした「国は国民を守らない」。3・11で世界は変わりました。この日を迎えるに当たって、国民を守らない政府と決別する「決意の日」とするものがふさわしいのではないかと思います。(C)